

厚木市文化芸術振興委員会第3回会議 議事録

会議の名称	厚木市文化芸術振興委員会第3回会議
会議の主管	産業文化スポーツ部 文化魅力創造課
会議の日時	令和8年2月4日（水）午前10時30分から午後12時10分まで
開催の場所	あつぎ市民交流プラザ6階 ルーム602
出席者	厚木市文化芸術振興委員会委員8人
説明者	事務局（産業文化スポーツ部長、同次長、文化魅力創造課長、同文化芸術振興係副主幹兼係長、同副主幹）
傍聴者	なし

会議の経過は次のとおり

厚木市文化芸術振興委員会第3回会議

- (1) 開 会 文化魅力創造課長
- (2) あいさつ 委員長
- (3) 案 件

ア 第2次厚木市文化芸術振興計画第2期基本計画に係る意向調査結果について  
資料1に基づき、事務局から説明

《質疑応答》

委員：文化財巡りについて、巡ると鑑賞する、の違いがあまりないのではないかと。音楽であれば、演奏するのと聴くのとで違いがあると思うが、文化財については、受動的、能動的の区別があまりないのではないかと。写真についても、記録写真を撮るのか文化芸術作品を撮るのか、分けができていないのか。出かけてスマホで記録の写真を撮るのを文化芸術活動とするのか、その辺りの分けが出来ているのか。また、ウェルビーイングについて、厚木の回答は他と比べて平均的なものか。

事務局：選択肢については、その文言をどのように捉えるのかは個人のイメージで差が出るものであり、どの程度、細かく設定するのかは論点があるかと思うが、神社仏閣については、前回の調査と同じ形で記載し、経年変化を見たいという考えがあった。基本的に、選択肢の書き方については、他の自治体等のいろいろな調査を見て、どのような言い回しが一番回答しやすいか考え、設定させていただいたものである。

確かに写真については、記録写真なのか文化芸術作品を撮影するのかわ、文化芸術活動において違いはあると思うが、他の自治体でも、分けをしている事例はあまりないように思われる。また、文化芸術作品のイメージもそれぞれ人によって異なる。ここでは、他の文化芸術活動との違い、例えば、絵を見る、音楽を聴くなどと比較して、写真に興味があって、写真を撮る、という方がどのくらいいるのか、という趣旨で設定させていただいたものである。次回に調査、アンケートを行う際には参考にさせていただきたい。

ウェルビーイングについては、他の自治体と比べて、だいたい同じ傾向である。

委員長：活動を行ったか、鑑賞したか、という点が異なるかという点、名付けられるものと名付けられないものがあり、それぞれがどれに当てはまるかと考えると難しい。推し活をしていて、写真は撮ったが、芸術なのか、何に当たるのか、ということはあると思うが、調査を機会に、自分がどのような文化芸術に関わっているのかという内なる問いが生まれるのはいいことだとは思う。

イ 第2次厚木市文化芸術振興計画第2期基本計画策定方針（案）について  
資料2に基づき、事務局から説明

《質疑応答》

委員：コメントだが、抽象度が高いのはいいと思うが、配慮すべき事項の3つ目の「多様な文化芸術活動の推進」の、「多様な表現活動」という言葉は、一番抽象度が高いと感じたため、もう少し抽象度を下げた方がいいのではないかと思った。また、計画期間が9年間というのは今の時代の中では、何が起きるか分からない中で、長い気がする。企業だと3年から5年である。9年間の根拠があれば教えていただきたい。

事務局：9年間というのは、基本計画の計画期間であり、現行計画の3年間の計画は、実施計画と呼んでいる計画に当たり、来年度策定予定である。基本計画は、基本理念、基本方針といった大きな枠を設定する計画であり、その基本計画に基づいて、実施計画であるアクションプランを作成する予定である。総合計画が来年度からの10年間の計画であり、終了を合わせて、この計画も17年を終了年次とするものである。総合計画では5年間ずつのアクションプランを作成し、大きな見直しは5年ごとに行う。文化の計画は、終了年次を合わせる形で、それぞれ、4年間、5年間という形で策定予定である。

表現活動の文言については、文化芸術基本法に基づいて記載したものであるが、もう少し分かりやすい表現を検討してみたい。

委員：どこを見直すかが分かりづらい。市の総合計画があって、その下に文化の計画があり、市の総合計画に文化の計画がリンクしているという意味か。その中に第1次と第2次の計画があるのか。非常に分かりづらい。図にしてみると、分かりやすい。今年度、我々が進行管理をしていたのは、第1期の計画の最後の方で、今度は、第2期の計画を策定するに当たって意見をすることか。

事務局：お見込みのとおりである。図解でお示しするとおり、大きな柱を基本計画で定め、実際の取組を記載したのが実施計画であり、毎年度の実績について御報告し、御意見をいただいているものである。

委員：新しい事業計画を立てるのであれば、第1期の計画でどういうところが足りなかったのか、というものが必要ではないか。細かい取組についての御意見は、皆さんいろいろな分野で活躍されているので、出ると思うが、本来はそうしたレビューが必要なのだと思う。今の計画の中で、厚木はどこが足りないのか、伝統文化を育成した取組をした方がいいのか、次の世代を育てる取組をした方がいいのか、そういうことを意見すれば良いのではないかと思う。

事務局：まさに来年度の会議で具体的に御意見をいただきたいところである。第2期基本計画の体系図を決めるに当たって、どこが足りなかったかということをお示しさせていただいた上で、来年度御意見をいただき、策定を進めたい。策定方針は、そうした具体的な体系図を作成するためにどういった視点に配慮すればいいのか、という大きな視点からまとめたものになる。文化の計画だけではなく、他の個別計画においても、計画を作成する際には、策定方針を作ることにしているためお示ししたものが、この策定方針である。

委員：スケジュールでは、3月に基本計画策定となっているが、基本計画を作成してから、担当課に下すというのであれば、遅いのかと思う。もう少し早めて、各職場に下して、それに合った実施計画を立てないと間に合わないのではないか。

事務局：イメージとしては、実施計画は、基本計画と同時並行で策定するようになる。

委員：実施計画は条例と基本計画にリンクしていたかと思うが、本当に基本計画にリンクしているのかという気がしている。失礼な言い方だが、出てきた実行計画を基本計画に載せているだけに思ってしまう。前の年度の実行計画のレビューをして、評価がAなどのいい取組はもっと良くして、BやC評価が付いているものについては、何が悪くてどうしていけばいいのか、ということ踏まえて実施計画ができていないとおかしいのではないかと。3年委員をやっている中で、少し新しい計画が入っているが、なんとなく同じ感じがしている。基本計画に関わったことがないので分からないが、そこをもう少し議論して、それを各職場に下して、実行計画を作成すべきではないかと思う。

事務局：実施計画は来年度に策定するが、御意見を庁内の検討組織においても共有し、実施計画の策定の際にも、いただいた御意見を反映していきたい。

委員：基本計画の策定は3月だが、もう少し前に、職場の人に意見を下して実行計画を立てているということか。

事務局：その通りである。

委員：第1期のところを、どうすべきか、という大きな議論をすべきであると思う。どうしても実行計画が頭に入っているので、それを見てしまう。

事務局：次年度、基本計画を策定するに当たって、配慮すべき注意事項がこちらの策定方針である。こういった点に配慮すべきである、などの視点があれば御意見いただければと思う。基本計画については、今後、いろいろな御意見をいただいて策定していきたい。

委員長：今、事務局からの説明を受けて、第1期と第2期の橋渡しはきちんとできていると思う。過去の資料では、令和14年までの内容だったので、今説明が聞けてよかった。他に御意見いかがか。

委員：先ほどのアンケート調査の結果について、文化とスポーツは生きがい、などにつながると思うが、文化は、スポーツと同じ流れなのか。同じ計画として並んでいるのか。

事務局：その通りである。総合計画の下には、文化、スポーツ、産業など、様々な個別計画がある。文化は、スポーツと同時に動いており、スケジュールも同様である。

委員：コロナの頃に、厚木が住みよいまちランキング上位に入り、厚木に住んでいてよかったと思った。そういう市としての行政の方向性も、計画にいかしていきながら、また、意見も吸い上げながら策定するということか。

- 事務局：文化・スポーツは、幸福度では高い位置を占めており、市長の政策でもあり、しっかりと取組を推進していきたい。計画についても皆様に御意見いただきながら、いいものにしていきたい。
- 委員長：掲げようとしている策定方針については、個別にこれが出てくるわけではなく、全体として目を通して見ると、前後の文脈の流れの中で、策定方針の位置付けが理解できる。そうした中では、この策定方針の内容で良いかと思う。先ほど、話題に出た、「多様な文化芸術活動の推進」については検討いただけるとのことだったが、他に検討すべき点はいかがか。
- 委員：配慮すべき視点の、誰もが文化芸術に親しめる、というのは、大事なところである。幸福度は、鑑賞をしていると高いということだった。文化会館、アミュー、公民館などの施設を充実し、使いやすく、行きやすくするというような点を入れて欲しい。そのような話はここでいいか。
- 事務局：利便性を高めるという細かい視点よりは、もう少し大きな視点でいただければと思う。
- 委員：行く、見る、広めるための利便性を高めるための取組という意味であり、場所の確保という細かい話ではない。年を取るといろいろなところに行きづらくなる。スマホで鑑賞したりなど、そういうことがしやすい環境を作っていく、ということもあるのではないか。
- 事務局：いただいた内容を基本計画に反映しようとする、いつでも、どこでも体験できる、鑑賞できる環境を進める、というような内容で目標に掲げるような形になる。もっと細かい話であると、実施計画に反映していくようになる。
- 委員：「多様な文化芸術活動の推進」については、感じることもある。後継者が育ってこない。そういう場も少ない。文化芸術を進めるためのキーとなる人達が少なくなっている。一方で、若い人たちの中には、音楽のイベントなどが盛んになってきている。過去からある美術、書道など、そうした分野では、そこだけで活動しても人が入ってこないと思う。
- 事務局：来年度、そういう視点を、次世代の育成、既存の指導者の育成、次世代の文化、などとして、織り込めると思う。引き続き御意見いただければと思う。策定方針については、前回の会議の委員からの御意見を大事にし、踏まえた形で作成しており、網羅していると考えている。
- 委員：抽象度が高いのはいいが、山や川など、自然の視点が入っていなければ入れて欲しい。
- 事務局：策定方針は大きな視点を記載するものなので、こちらに文言として、入っていないとしても基本計画の中で広げていくことは可能である。郷土という言葉に含まれていると考えている。この計画については、文化芸術振興条例に基づいているものであるが、条例の基本理念が「人・まち・自然が響きあうあつぎの文化芸術を創造する」であり、自然という言葉が入っている。現在の基本計画の基本理念では、条例の理念がそのままスライドする形で、同じ文言が入っている。計画の上位に位置する条例の理念の実現のために計画があるので、これから策定する基本計画においては、そのままその理念がスライドするのかアレンジするのか、皆様の御意見をいただきながらではあるが、自然というキーワードは入ってくるのではないかと考えている。意向調査においても、市民の皆様が自然を誇りに思っているという結果が出ており、今後そうしたことを反映し、計画を策定していきたい。

委員長：「多様な表現活動」の文言は、修正は必要ないか。

事務局：「文化芸術基本法においては、」という文言を記載しているが、法から引用しているので、法律の文章をそのまま書かざるを得ないのと、「多様な表現活動」という文言が、様々な文化芸術活動を網羅的に説明している言い方で分かりやすいと考え、盛り込んだ。また、前回の会議において御意見をいただいた「自己表現」という文言にも、「表現」が入っており、文化芸術は「表現である」という趣旨も入れることができると考え、「多様な表現活動」とした。

委員長：私は問題ないと思う。

委員：来年度に、基本計画を作ることになるのか。委員会としては、新たな計画の策定と別に、7年度の結果のレビューもするのか。

事務局：お願いすることになる。年間のスケジュールは皆様に通知する。

委員長：議論のタイミングを示したスケジュールを周知いただけるということである。策定方針については、この案でよろしいか。

→委員、了承

#### (4) その他

来年度の会議は6月頃を予定している。計画策定の進捗に合わせて、決定する。

#### (5) 閉 会 委員長職務代理